

鳥獣保護管理プランナー

横山 典子

株式会社野生動物保護管理事務所
広島事業所

対象鳥獣

ニホンジカ

活動地域

三重県
亀山市

● 事業内容

講演「ニホンジカによる森林被害の現状とその対策」

研修

助言

■ 事業の背景

三重県亀山市に位置する野登山(ののぼりやま)(標高851.4m)は、山頂に野登寺(やとうじ)という真言宗御室派の仏教寺院がある。野登寺は、雨乞いや米作りにご利益のある寺として地域の人々の信仰を集めている。参道には、直径1m程度のスギが林立し、また周辺の広葉樹林にはブナが生育している。この寺は、平安時代に創建され、周辺の森林は社寺林として長く保護されてきたため、貴重な自然植生が残っている地域である。

近年のニホンジカ(以下、「シカ」という)の個体数増加に伴い、当地域において下層植生の衰退や生物多様性の低下などシカによる森林への影響が顕著となっている。そこで、「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」では、植生保護柵の設置を行い、希少な植物を保護している。協議会のメンバーは地元住民、民間企業、野登寺関係者、林業者、行政、市議会議員などで構成されているが、シカ管理の専門家が不在であり、野登山の森林を守るために何をすべきかがわからない状況であった。そこで本事業の研修では、野登山のシカの管理の方向性を議論するため、基本的なシカの生態と被害対策について、協議会メンバーで知識を共有することを目的に開催された。

実施した内容

現地見

講演にあたり、現地を下見し、シカの生息状況や森林の衰退状況を把握した。現地見により当地域ではシカの生息密度が高いこと、目撃したシカの行動からほとんど捕獲されていないこと、下層植生の衰退、土壌の乾燥化などが進んでいることが分かった。また、当地域の地形・地質から山頂付近において水が湧くことから雨乞い・米作りにご利益がある場所とされたことが推察された。



写真 現地見の様子

講演

講演では、研修参加者に対して、シカの基本的な生態およびシカが及ぼす森林植生への影響について説明した。シカの基本的な生態については、シカの食性は多様な樹種にわたること、GPS首輪によるデータから地域によってシカの行動が変わること、三重県のシカの行動は季節移動をしない個体が多いことなどを説明した。

また森林植生への影響については、シカの過度な採食圧により下層植生の衰退や生物多様性の低下だけでなく、土壌流出が生じること、さらに2024年7月1日に発生した伊吹山での土砂災害はシカの影響によることなどを紹介し、シカの影響の大きさについて説明した。



写真 研修会の様子

■ 事業の成果

講演後に研修参加者と、野登山のシカ管理について議論した。シカ管理はシカの個体数管理や被害管理が主であるが、目標とするべき森林像により、シカの管理の方向性が異なることを伝えた。研修参加者からの意見により、野登山は野登寺によって森が守られたこと、山頂付近に水が湧く珍しい地形であること、その水のおかげで大きなスギが生育できていること、水が湧くことから野登寺は雨乞い・米作りにご利益があるとされていることなど、森林生態系の保全的価値のほかに、歴史的な価値も高い地域であることが、共通認識として得ることができた。では、その森をどうやって守るべきなのか、植生保護柵をどのように設置するのか、シカの捕獲については実施体制をどうするのかなど具体的な課題を抽出することができた。また、野登寺周辺だけでなくシカの行動を考慮して、広域での管理の必要性を協議会メンバーが認識することができた。



写真（右）

マユミを採食するためにできた多数の足跡

写真（左）

野登寺参道に林立するスギ